

2025年度事業報告

特定非営利活動法人ふおーらいふ

総括

不登校状態にある児童・生徒が、法人の教育理念「自主」「自立」「生活と命」にもとづく体験学習活動などへ、主体的に参加した。また民間や自治体などの助成に申請し、自然体験活動や地域交流などを企画。学校外で学び育つ地域の子どもたちに向け、体験や学びの機会を提供した。

また、行政や福祉関係の場で設けられる、教育・不登校に関する施策提言の場へ参画し、情報発信に努め、不登校に対する地域社会の理解を深めるよう努めた。

また本年度も、外部からの講演依頼を受け、職員が登壇したほか、垂水区社会福祉協議会ならびに神戸市垂水区地域協働課との協働事業を通じて、当スクールならびに当法人が培ったノウハウなどを地域活動団体へ還元した。

(1) 青少年が主体となって総合的に学び、育ちあうフリースクールの運営

●フリースクール ForLife

毎週月・火・水・金に、フリースクール ForLife を実施した。

1. 自然体験・仕事体験の実施

神戸市青少年育成支援事業補助金と、生駒温子児童福祉助成を受け、里山工房で自然体験活動を計5回実施。一般参加者と小学校低学年部あかでみあの子どもを含め、のべ54名が参加した。

現地では、火起こしや薪割り、野外調理、木工作品作りを通して、道具の使い方、自然との共生などを学んだ。



2. 地域行事への参加

6月に、フィッシングマックス主催のフリースクール合同釣り大会に参加。当スクール以外にも2校が参加し釣りを学んだ。

9月に、地域行事で缶バッジ体験ブースを出展。接客などを実践的に学んだ。



3. その他の活動について

2月に、垂水区文化センターで、フリースクール文化祭「仲間展」を実施。Fir-St-Art 協力のもと、来場者のサポートをしながら、ダンボール工作に取り組んだ。また、一年間の作品を展示し、スクールのこどもたちの活動実績を周知した。



4. 独自の学費補助について

寄付金から、神戸市内在学の中学生8名(1名は辞退)を対象に2,000円/月、計168,000円の独自補助を実施した。



●小学校低学年向けフリースクールあかてみあ

毎週木曜に、小学校低学年向けフリースクールあかてみあを実施した。

1. 合同行事の実施

フリースクール ForLife と合同で「子どもフェスタ in 兵教」やロング巻き寿司作りなどを実施した。異年齢との交流・関係構築の機会になり、社会性や対人関係力の育成につながった。



自然体験

2. 自然体験の実施

しあわせの村で自然体験(デイキャンプ)を実施。里山体験で得た技術や知識を活かし、火起こしや調理体験を行い、仲間づくりや協力を学んだ。

(2) 学習およびコミュニケーションに関する支援事業

1. 放課後クラブについて

毎週土曜、年間で延べ45日開催し、発達障害(グレーゾーン含む)や学びづらさがある地域の小学生の学習支援を実施した。

また、夏休みには専門の講師を招いて「夏休み宿題やつけ隊」(作文・木工・自習)を3日間企画・開催し、のべ5名が参加した。

学習だけでなく、居場所機能も持った子ども同士のコミュニケーションの場にもなっている。



学習の様子

(3) 青少年及びその周辺の人々に対する生涯学習の機会と場の提供

1. 大学生の実習受け入れなど

下記の実習生受け入れるとともに、教育・福祉の研究に協力した。

神戸学院大学・現代社会部(2名・12日間)、関西福祉大学・社会福祉学部(2名・6日間)。

2. トワイライトスペースたるみ

家庭にも学校にも居場所がなく、孤立しがちな子ども・若者(11歳~20歳)を対象に、公式LINEで相談事業を実施したが、相談件数は0件だった。

(4) 教育や不登校などの相談及び支援・情報の提供活動

1. 教育や不登校などの相談・支援について

当法人の多目的室（ルーム B）で、毎月第 3 土曜に「不登校親の会」を開催。卒業生や社会人、保護者のトークイベントを企画した。また、垂水図書館、4F の「たるみなとルーム」でも公開親の会を開催。例会は年間のべ 11 回開催、延べ約 100 名が参加した。各回の参加状況は表 1 の通り。

(表1) 親の会事業報告

実施内容		参加者数
4 月	親の会	7 名
5 月	親の会	7 名
6 月	親の会	7 名
7 月	親の会	7 名
8 月	お休み	7 名
9 月	親の会	9 名
10 月	公開親の会「不登校の子どもから教えられたこと」トークライブ	13 名
11 月	親の会	7 名
12 月	親の会	8 名
1 月	垂水図書館にて親の会	10 名
2 月	親の会：1 月に続き、元気をもらうために参加	7 名
3 月	親の会、西宮不登校親の会、C.P.P.A（河本さん）の参加	12 名

2. 情報提供活動について

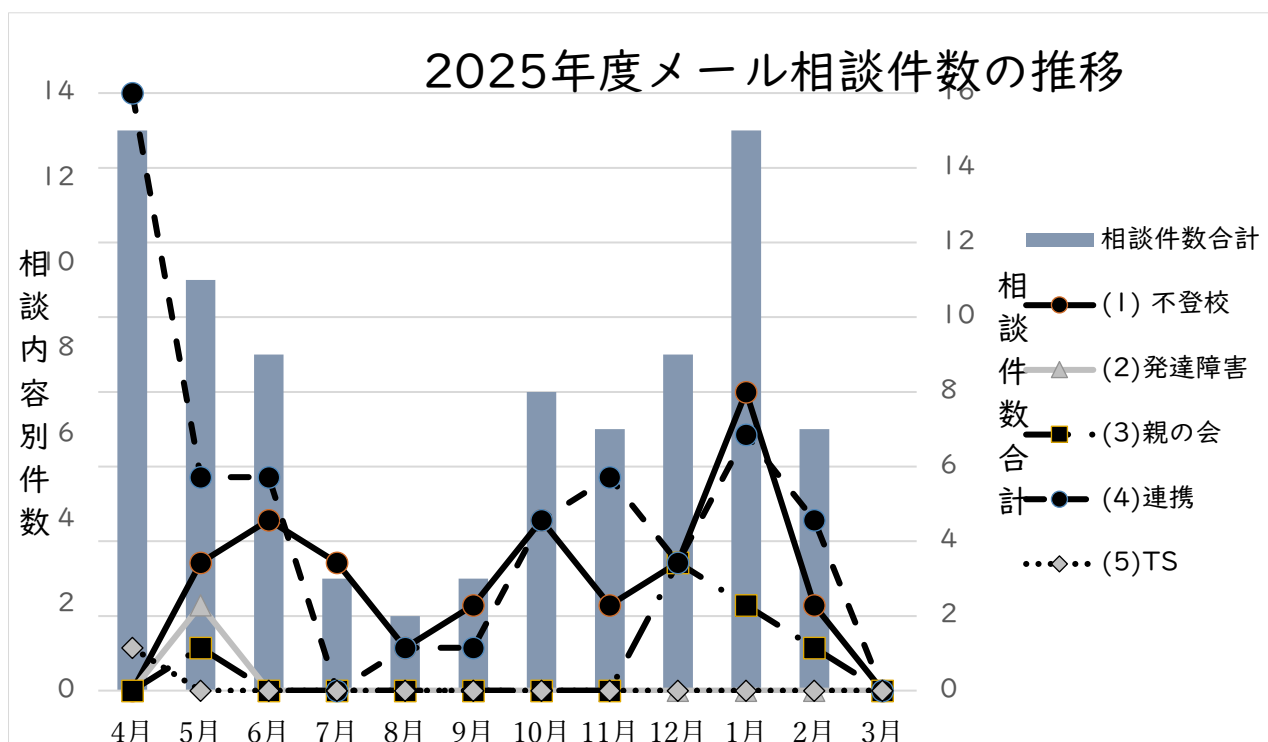
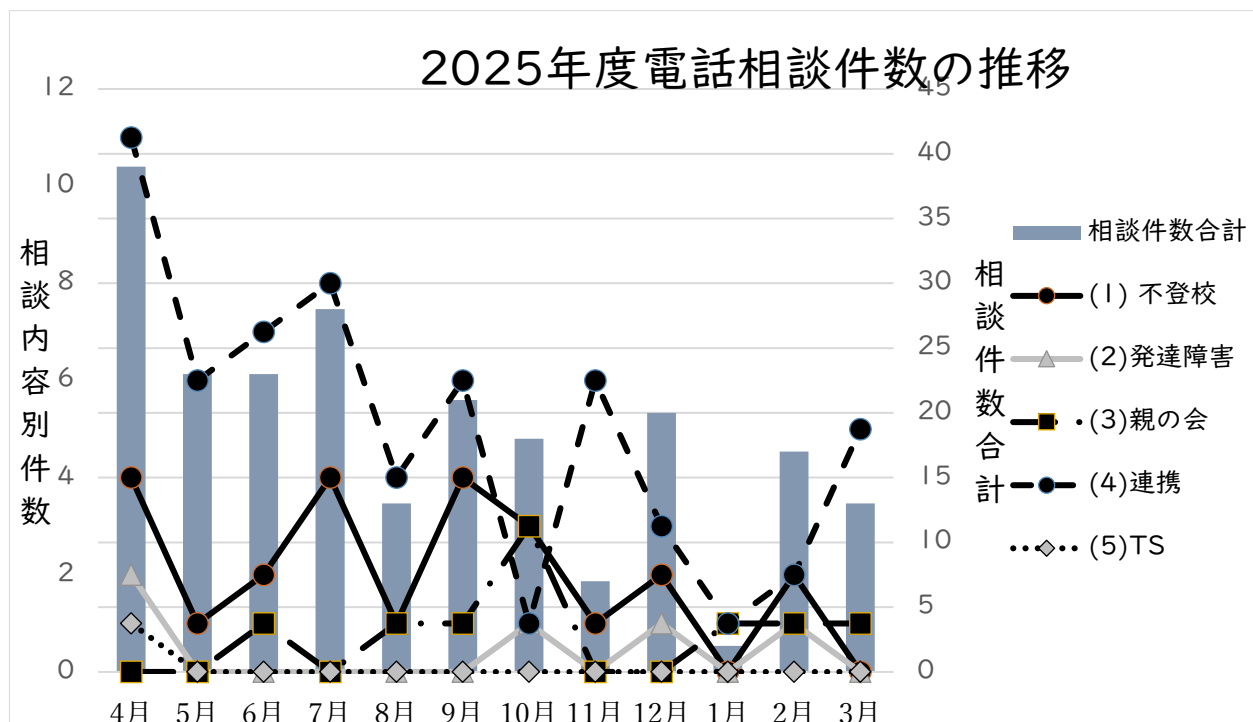
団体季刊紙ゆう通信を年 3 回、1 回あたり約 200 通作成。関係機関・会員向けに発信した。SNS でも、フリースクールの活動を中心に情報を発信。活動の透明性を高めるように努めた。発信回数などの詳細は、表 2 通り。

(表2) メディアの発信頻度

発信メディア	発信頻度	月平均	フォロワー/登録人数
X(旧 Twitter)	5 回/週	約 20 回	1,281 人
ブログ(CANPAN)	5 回/週	約 19 回	
Facebook	5 回/週	約 17 回	830 人
Instagram	5 回/週	約 17 回	529 人
YouTube	2 回/年	約 0 回	312 人

3. 日常的な相談支援について

今年度の問い合わせ・見学者・体験入学者・入学者数ののべ人数と、フリースクール在籍者の月平均人数とその内訳、ならびに卒業者数ののべ人数は、表3の通り。



(表3) 本年度の相談件数ならびに在籍者数などの状況

問合せ件数	見学者数	体験入学者数	入学者数	在籍者数	卒業者数
のべ49人	のべ14人	のべ8人	のべ4人	※平均16人	のべ7人

(※在籍者数の内訳:小学生9人、中学生7人、高校生1人)

(5) その他第3条の目的を達成するために必要な事業及び前号の事業に付帯する事業

1. 不登校・教育に関する施策への提言

フリースクール全国ネットワークなどが主催する会議体において、不登校支援団体との意見交換や各種提言、企画などに協力した。また「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法」（教育確保法）の成立に伴い引き続き「兵庫県フリースクール連絡協議会」に主体的に参画し、各教育委員会（神戸市／明石市／尼崎市など）との連絡会に参加し、不登校の子どものために、より良い環境設定の要望を示した。

登校拒否・不登校を考える全国ネットワークの夏の全国大会のサテライト会場を主宰、オンラインによる参加者を含め 300 余人の参加者があった。

2. 当法人の実績を活かし、行政や福祉分野などの多様なセクターと協働・提案する事業

当法人の取り組みを通じて得られた教育・福祉・子ども・青少年などの分野の活動実績を活かし、神戸市垂水区社会福祉協議会の協働コーディネート事業を受託、福祉分野の広報を支援する事業やネットワーク、情報処理のインフラ構築業務などに従事した。

神戸市垂水区役所地域協働課の協働コーディネート事業を受託。神戸市垂水区内で、地域活動に取り組む非営利団体などの相談を受け、垂水魅力アップ活動助成・神戸市 NPO 等補助をはじめとする各種助成金の申請支援や運営相談に従事。当法人の活動で得てきた知見をベースに同助成受託団体の事業に対し、助言ならびに伴走支援を行った。

3. 当法人の実績を活かし、講演・講義などを行う事業

芦屋市、神戸市等の社会福祉協議会、神戸大学、地域活動団体から不登校や教育をテーマとした講演・講座の依頼を受け、当法人の職員が登壇した。また、神戸市内の公立中学校、明石清水高等学校などからの依頼を受けて、持続可能な開発目標（SDGs）をテーマとしたワークショップを企画・開催した。

※2.3 の委託や講演等で得られた委託費、講演料、謝金は、当法人のフリースクール事業を中心に活用した。